

宗教を踏まえたスピリチュアルケア の実践の可能性

—浄土真宗の視点から—

愛知県立大学

河村 諒

ビハーラ:

- ・1985年に田宮仁が「仏教を背景としたターミナルケア施設」の呼称として提唱(田宮, 1996)
- ・1980年代より、仏教各宗派でも病院や老人ホームにおいてビハーラ活動に着手(鍋島, 2007)
- ・サンスクリット語で
「くつろぐこと」「くつろいでとどまること」
⇒「精舎・僧院」「身心の安らぎ」「修行を実践する
道場・休息の場所・病院」を指す
- ・1992年新潟の長岡西病院ビハーラ病棟が開設

ビハーラは仏教の縁起的生命観にもとづく(鍋島, 2007)

⇒ 自他不二の関係性、壮大ないのちのつながりに
気づいて、自他に慈しみをもって生きていくことを
教えたもの

親鸞の『顕浄土真実教行証文類』信卷

『安楽集』に云わく、諸部の大乘に拠って説聴の方軌を明かさば
『大集経』に云わく、「説法の者においては、医王の想を作せ、
抜苦の想を作せ。所説の法をば、甘露の想を作せ、醍醐の想を
作せ。それ聴法の者をば、増長勝解の想を作せ、愈病の想を作
せ。もしよくかくのごとき説者・聴者は、みな仏法を紹隆するに堪
えたり、常に仏前に生ぜん」と。

⇒ 「仏法を説く者も聞く者も病人の苦しみを取り除き、
その悩みを癒すような自覚をもって相手に接し、
自らの心を育てていってほしい」という願い(鍋島, 2007)

ビハーラの姿勢は親鸞の思想にも通じる

浄土真宗本願寺派のビハーラ活動の理念として・・・

「ビハーラ活動」とは、仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、支援を求めている人々を孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。そして私たち自身が、苦しみや悲しみを縁として、自らの人生の意味をふりかえり、死を超えた心のつながりを育んでいくことを願いとしています。すなわち、「ビハーラ活動」とは、「生・老・病・死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアであり、「願われたいのち」の尊さに気づかされた人たちが集う共同体を意味します。

「ビハーラ活動の理念」(浄土真宗本願寺派社会部HP)
<https://social.hongwanji.or.jp/html/c11p3.html> (2023.8.21)

仏教を踏まえ、医療・福祉の分野において全人的
ケアとして実践されている

※全人的ケア:全人的苦痛に対するケア

身体的苦痛

- ・痛み
- ・他の身体症状
- ・日常生活動作の支障

社会的苦痛

- ・仕事上の問題
- ・経済的な問題
- ・家庭内の問題
- ・人間関係
- ・遺産相続

全人的苦痛 (total pain)

靈的苦痛

- ・生きる意味
- ・苦しみの意味
- ・死の恐怖
- ・神の存在
- ・死生観の悩み

精神的苦痛

- ・不安
- ・いらだち
- ・孤独
- ・恐怖心
- ・うつ状態
- ・怒り

スピリチュアルケア:

人生の意味、苦難の意味、死後の問題などが問われ始めた時、その解決を人間を超え超越者や内面の究極的自己に出会う中に見つけ出せるようにするケア (窪寺, 2008)

⇒具体的な実践内容として...

- ・相手の思いを聴く(傾聴)
- ・相手の思いを認める
- ・そばにいる
- ・超越的存在の支えを感じることができるケア
- ・生や死と向き合うことを支えるケア
- ・人生の整理を支えるケア

...等々 (川崎他, 2005; 西村他, 2018)

宗教を踏まえたスピリチュアルケアについて・・・

- ・病院で宗教的ケアを受けた患者の遺族は、概ね宗教的ケアを有用と評価しており、特に信仰がある遺族の方が信仰がない遺族より有用と評価していた (Ando et al., 2010)
- ・高齢者施設の利用者は宗教に救済や援助を求める場合がある (村田, 1998; 大和田, 2015)

※宗教的ケア:

宗教的行事がある、宗教家が訪問する、等

宗教に対する需要や有用性が指摘されている

そこで・・・

高齢者施設におけるスピリチュアルケアとしての宗教的な関わりとして、具体的にどのようなことが実践されているのか？

対象：

- ・浄土真宗本願寺派の高齢者施設連絡協議会に参加している高齢者施設5ヶ所（介護職員9名）
- ・宗教法人が経営母体ではない高齢者施設2ヶ所（介護職員3名）

調査方法：

半構造化面接

実践されている宗教的な関わりとして・・・

表1 実践されている宗教的な関わり

浄土真宗本願寺派関連の高齢者施設

初詣、お盆、お彼岸といった一般的な宗教行事

広間に仏壇を設置（自由にお参り可能）

定期的なお参り、法話会

永代経、報恩講といった特定宗教の宗教行事

葬儀

宗教法人が経営母体ではない高齢者施設

初詣、お盆、お彼岸といった一般的な宗教行事

部屋に個人的に小さな仏壇を持ち込むことの許可

具体的内容として実践に繋げやすい？

表2 宗教的な関わりの実践に対する肯定的評価

浄土真宗本願寺派関連の高齢者施設

大カテゴリー	小カテゴリー
利用者面での肯定的評価	大切にしてきたことへの機会・場の提供
	利用者間の交流の場
	死後の処置の具体化
職員面での肯定的評価	宗教観の醸成
	利用者を思い出す機会
	自身の介護を見直す機会
	利用者の話を聞く機会
	職員自身の成長
利用者家族面での肯定的評価	利用者家族への精神的ケア

宗教法人が経営母体ではない高齢者施設

大カテゴリー	小カテゴリー
利用者面での肯定的評価	利用者の心の安らぎ

- ・全人的ケア、グリーンケアとしての有用性
- ・自他、関係者間での慈しみ、心の育みへの繋がり

表3 宗教的な関わりの実践に伴う問題点・課題点

浄土真宗本願寺派関連の高齢者施設	
大カテゴリー	小カテゴリー
利用者の障害	障害による参加の困難さ
職員の意識	職員の宗教的知識・宗教観のなさ
	若い職員の積極性の低さ
	意義の無理解
すべての宗教への不対応	すべての宗教への不対応
宗教法人が経営母体ではない高齢者施設	
大カテゴリー	小カテゴリー
利用者の意思表示	宗教的発言（意思表示）の不明示
すべての宗教への不対応	すべての宗教への不対応

表4 宗教的な関わりの実践に対する否定的評価

宗教法人が経営母体ではない高齢者施設	
大カテゴリー	小カテゴリー
利用者面での否定的評価	不要
施設面での否定的評価	施設の方針として不実践

すなわち・・・

【利用者面】

- ・認知症に伴い死や宗教関連の発言がみられない
- ・そもそも宗教を求めている（と思われる）

【介護職員面】

- ・宗教に関して無関心、意義の不理解

【施設面】

- ・全ての宗教には対応できない（各々信仰が異なる）
⇒「特定の宗教」として実践することの困難さ
- ・宗教に対して否定的

- ・宗教に対する否定的イメージの強さ
- ・宗教的な関わりの有用性の認識の問題？

以上を踏まえ・・・

宗学、宗教者

- ⇒・(浄土真宗における)理念、教義的解釈の検討は行われている
- ・関心、実践には宗派、個人含め温度差がある
 - ・世間の宗教に対するイメージから前面に押し出せない

心理学

- ⇒・宗教の需要や有用性を検討
- ・宗教家による宗教的な関わりが求められている

理念や解釈の理解(布教ではない)、有用性の認識・具体的内容など、相互に共有しあうことで実践性が高まる？